

2023年度(第31回)日本産業衛生学会専門医資格認定試験について

専門医制度委員会
委員長 大神 明

第31回日本産業衛生学会専門医資格認定試験は、昨年同様従来通りの対面方式で実施されました。パナソニックリゾート大阪にて8月19日・20日に実施しました。筆記試験と口頭試験(グループ討議、面接、課題発表)の内容で行いました。

1. 総合結果

受験者18名で合格者は13名、合格率は72.2%でした。総合判定で不合格と判定した受験者は計5名です。

2. 筆記試験(筆記試験部会長 黒澤 一)

試験時間は2時間で、問題は例年通り、産業医として備えるべき基本的・標準的な知識を問うA問題、産業医活動を展開する上で必要なより高度な知識を評価するB問題、現場で必要な実際的な問題解決能力を評価するC問題で構成しました。問題数および配点は、A問題は、○×形式10問、4肢択一形式10問、穴埋め形式20問の計40問で、配点を各1点としました。B問題は基本的な用語の説明問題を2組(B1,B2)としました。C問題は図表や写真からの考察問題(C1)と産業医としての事例対応問題(C2)を提示しました。B、C問題とも、それぞれどちらか一方を選んで回答するように求めました。これらの配点は各15点です。

その結果、全体の平均点は68.2点、最高点は78点、最低点は55点で、領域別の平均得点率は、A問題78%、B問題61%、C問題62%でした。昨年よりB問題で点数が高い傾向にありました。C11、12の得点率が48%と低調でした。記述の分量は十分でしたが、図表の解釈が表面的なものにとどまっている解答が多く点数が伸びなかった印象です。残念ながら、産業医として重要である核心部分に到達する回答はわずかでした。化学物質の自律的管理や騒音ガイドラインなどトピックスに関する問題については、解答状況は比較的良好でした。受験者からの問題に関する問い合わせはありませんでした。

3. 口頭試験(口頭試験部会長 北原佳代)

4~5名を1グループとするグループ討議および課題発表、そして個人面接により口頭試験を行いました。グループ討議と課題発表の問題は、現在の社会が抱える課題等も背景として、様々な業態の産業保健現場で身近に発生しうる今日的な課題を取り上げました。

グループ討議では、設定場面で考える課題を幅広く議論し、論点を整理した上で、グループとして纏め上げること、また討議への参加状況やグループの一員として活動できるかどうかといった視点も含め評価しました。論点整理やプレゼン能力は、いずれのグループも高い評価を得ましたが、与えられた課題への把握が表層的で議論が拡がらないグループや、グループ内の討議内容を把握しきれず、論旨のずれた発言・提言をする受験生が見受けられました。

面接試験では提出された研修手帳内容を元に、具体的な現場での実務経験に対する質問をし、評価しました。研修内容に対する具体的に質問に対し、専任(選任)されている事業場の特性を踏まえると、当然知っておかなければならない専門知識を習得できていない受験生や、当該事業場の産業保健的課題を十分把握できていない、またリモートワーク下で産業保健業務を行う場合も増加する中、事業場の実態をしっかりと把握できず表層的な関わりとなっている状況が推察される受験生が見受けられました。

課題発表では、設定された事業所の主要な問題点が把握できず、産業医として当該事業所へ適切な提言ができていない、もしくは問題点の把握は適切であっても、課題に対する産業医としての提言等が一般論に終始し、具体性に乏しい受験生が見受けられました。

産業医の実務は、医学的知見や社会的な制度・ガイドラインを提示すれば解決するものではありません。基本的

な知識を踏まえ、各事業場の特性を理解した上で専門職として具体的解決策を提案し共に解決していく必要があるでしょう。

4. 総評

今年も、昨年に引き続き大阪会場での本来の受験様式による対面での試験開催となりました。今年も受験者数が例年に比べ少なく18名で、合格率は昨年より少し下がりました。

今年の結果についての具体的な指摘点は上記の筆記試験部会長、口頭試験部会長のコメントの通りですが、この専門医試験は、総合的な専門性を問われる試験だと思います。産業衛生専門医制度は、社会医学系専門医のサブスペシャリティとして位置づけられ、公衆衛生学的、疫学的基本アプローチを駆使して、産業保健活動を行うスペシャリストを認定するものです。専門医制度委員会では、産業医としての専門的知識のみではなく、産業医の実践的なプレゼンテーション能力、専門性を持った論理構築能力、説明能力、議論能力、などを評価しています。産業衛生専攻医としての研修内容の温度差については昨年も言及したところですが、今年も受験生に関しては研修手帳の内容を見た限りではそれほど大きな差はなかったように思いました。しかしながら、専門的知識に基づき説明する能力、あるいは多角的に問題点を把握して解釈し説明し議論できる能力、といったものを試験という場でどのように発揮するかが合否のポイントになったと考えています。

専門医資格取得は、ある専門分野の1つの達成点であると同時に新たなスタートラインでもあります。今回、認定を受けた13名の方々は委員会委員の評価を経て及第点に達し、その新たな出発点に立たれたことになります。今後のご活躍およびご発展に大いに期待いたします。

結びに、今回も試験委員および各試験部会委員、評価委員の方々の試験問題作成・運営・評価に多大なるご協力いただきまして無事専門医試験が実施できましたことに深謝いたします。

筆記試験問題

A1. 以下の文章が正しければ○を、誤りであれば×を解答欄に記入しなさい。

- A101. 厚生労働省のエイジフレンドリーガイドラインは、高齢労働者の認知症予防とメンタルヘルス対策を目的としたものである。
- A102. 事業者が実施する健康診断に法定外項目を加える場合は、衛生委員会で同意が得られれば、本人の個別同意は不要である。
- A103. 健康診断の結果は、個人情報保護法で規定する「要配慮個人情報」に該当する。
- A104. 特殊健康診断を勤務時間外に行った場合、事業者は時間外の割増賃金を支払わなければならない。
- A105. 医師、歯科医師および労働衛生コンサルタントは、業種に関わらず衛生管理者としての資格を有する。
- A106. 海外派遣中の労働者についても労働安全衛生規則で1年以内ごとに1回の医師による健康診断の実施が義務付けられている。
- A107. 離職時じん肺健康診断で健康管理手帳交付の対象となるのは、管理3のみである。
- A108. 有機溶剤や特定化学物質などの特殊健康診断の実施頻度について、作業環境管理やばく露防止対策等が適切に実施されている場合には、当該健康診断の実施が免除される。
- A109. 作業環境測定で第1管理区分とは、当該単位作業場所のほとんど(80%以上)の場所で気中有害物質濃度が、管理濃度を超えない状態のことである。
- A110. 脳・心臓疾患の労災認定要件の中で、出張の多い業務は過重労働の負荷要因に該当しない。

A2. 選択肢の中から正解を1つ選び、その数字を解答欄に記入しなさい。

A201. 膀胱がんの原因と考えられている化学物質は何か。

1. トリレンジイソシアネート(TDI)
2. 3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン(MOCA)
3. カドミウム
4. 1,2-ジクロロプロパン

A202. 令和4年版厚生労働白書において、わが国におけるリスク要因別の関連死亡者数で、2019年の第1位のリスク要因とされているのはどれか。

1. 高血圧
2. 塩分の高摂取
3. 運動不足
4. 喫煙

A203. 労災保険給付の種類に該当しない項目はどれか。

1. 葬祭料
2. 遺族補償給付
3. 損害賠償給付
4. 介護補償給付

A204. リスクアセスメントで使用される CREATE-SIMPLE 法を行う際に必要としない情報はどれか。

1. CAS 番号
2. 換気装置の有無
3. 保護具の使用の有無
4. ばく露濃度の測定値

A205. 産業保健専門職が労働者のプライバシーを守る上で望ましい対応はどれか。

1. 個人の診断名や異常値などの生データはそのまま事業者に開示する。
2. プライバシー配慮への対応はすべての労働者で一律にする。
3. 健康情報を提供する対象者と情報の範囲は必要最小限にする。
4. 本人の生命や身体などの問題よりもプライバシー保護を優先する。

A206. 派遣労働者に関する労働安全衛生法の適用に関して、派遣先事業主に適用される項目に該当しない事項はどれか。

1. 雇入れ時の安全衛生教育
2. 作業主任者の選任
3. 作業環境測定

4. 有害な業務に係る健康診断

A207. 刺激性接触皮膚炎を起こしやすい物質はどれか。

1. ゴム
2. カーボンブラック
3. フッ化水素
4. ニッケル

A208. 化学物質の絵表示について、皮膚等への障害防止を講じる必要の優先度が高いのは、以下のどれか。

1.



2.



3.



4.



A209. 図は何を表すロゴマークか。

1. 日本産業衛生学会
2. 労働衛生サービス機能評価事業認定施設
3. 健康経営優良法人
4. 日本産業規格



A210. 事務所衛生基準規則で定められている事務所の衛生基準について、次のうち正しい事項はどれか。

1. 作業面の照度基準は、精密な作業、普通の作業、粗な作業の 3 区分である。
2. 独立個室型の便所であっても1つの便房を男女が共用することを認めていない。
3. 備えるべき救急用具の内容は各事業場で検討してよいとされている。
4. 休養室又は休養所は随時利用できるように専用の設備でなければならない。

A3. A301 から A320 の括弧に入る適切な語句を解答欄に記入しなさい。

- A301. 結核、水痘、麻疹の伝播経路は()感染である。
- A302. 業務上、歯の酸蝕症の発生リスクが高い作業において作業者に防毒マスクを着用させる場合には、()用の吸収缶を選択する。
- A303. B 測定値が、管理濃度の()倍を超えると、第 3 管理区分と評価される。
- A304. 酸素欠乏危険作業では、作業開始前に、()が酸素濃度の測定を行う。
- A305. 令和元年および 2 年度の THP 指針改正により、健康保持増進措置の考え方に「ハイリスクアプローチ」と「()アプローチ」の 2 つの視点が盛り込まれた。
- A306. A 型肝炎は()類感染症で、感染リスクが高い国への出張労働者に対してワクチン接種がすすめられる。
- A307. 産業歯科保健の現状として、う歯(むし歯)と()の両者を合わせると 9 割を超える有病率である。
- A308. 2023 年 4 月より、SDS の「人体に及ぼす作用」については、()年以内ごとに 1 回記載内容の変更の要否を確認することが義務化された。
- A309. 労災保険は労働者を()人以上雇用した場合、事業者が加入しなければならない。
- A310. がんなどの重度の健康障害を生ずるおそれのある業務に従事した者で、一定の要件を満たす場合は()が交付され、離職後も定期的な健康診断を無料で受けることができる。
- A311. 脳・心臓疾患の労災認定基準では、長期間の過重業務、短期間の過重業務、()により業務の過重性を評価する。
- A312. ()は、急速減圧に伴い肺が過膨張して肺胞が破れる現象であり、血液の混じった痰が出るのが特徴である。
- A313. 労働基準法では、女性が請求した場合に、産前 6 週間、多胎妊娠の場合は()週間女性を就業させることはできないと規定されている。
- A314. 労働安全衛生規則において、設備の占める容積および床面から 4m をこえる高さにある空間を除いたものを、屋内作業場の()という。

- A315. 旧労働省の昭和 23 年 1 月 16 日付け基発第 83 号の通達では、「寒冷とは() °C以下をいう」と定義している。
- A316. 放射線障害のうち、放射線障害を受けた本人に現れるものを「身体的障害」、放射線を受けた人の子孫に現れるものを「()的障害」という。
- A317. 石綿ばく露の指標となる限局性の胸膜肥厚を()という。
- A318. 労働安全衛生規則第 36 条に定められている、動力プレスの金型取付やアーク溶接機を使用する溶接など、いわゆる危険有害性のある業務に作業者をつかせるときに実施する教育は、()である。
- A319. 事業者は、高圧室内作業その他の労働災害を防止するための管理を必要とするもので政令で定めるものについて、()を選任しなければならない。
- A320. 産業保健の目的は、WHO/ILO 合同委員会の報告書(1995 年改訂)によれば、「働く人々すべての身体的、()および社会的健康を最高度に維持増進させ、(中略) 仕事と人との適応を図ること」である。

B1. B11 か B12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B11. 令和4年に公布された厚生労働省令等に基づき、化学物質の自律的管理が求められるようになった。化学物質の自律的管理において、産業医の果たす役割を 300 字以内で述べなさい。

B12. 化学物質の有害性を見積もる手法について、実測法と推定法にわけて 300 字以内で説明しなさい。

B2. B21 か B22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

B21. 「騒音障害防止のためのガイドライン」(令和 5 年 4 月改訂)について、改訂された主なポイントについて 300 字以内で説明しなさい。

B22. 「労働者の心身の状態に関する情報の適正な取扱いのために事業者が講ずべき措置に関する指針」では、心身の状態の情報を 3 つに分類している。分類される情報の例と情報の取り扱いの原則について、300 字以内で説明しなさい。

C1. C11 か C12 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

C11. 図はオーストラリア成人男性における座位時間と総死亡リスクとの関連について検討した論文のものである。この図から考えられることを 300 字以内でまとめなさい。

出典: van der Ploeg HP et al. Sitting time and all-cause mortality risk in 222 497 Australian adults. Arch Intern Med. 2012; 172: 494-500.

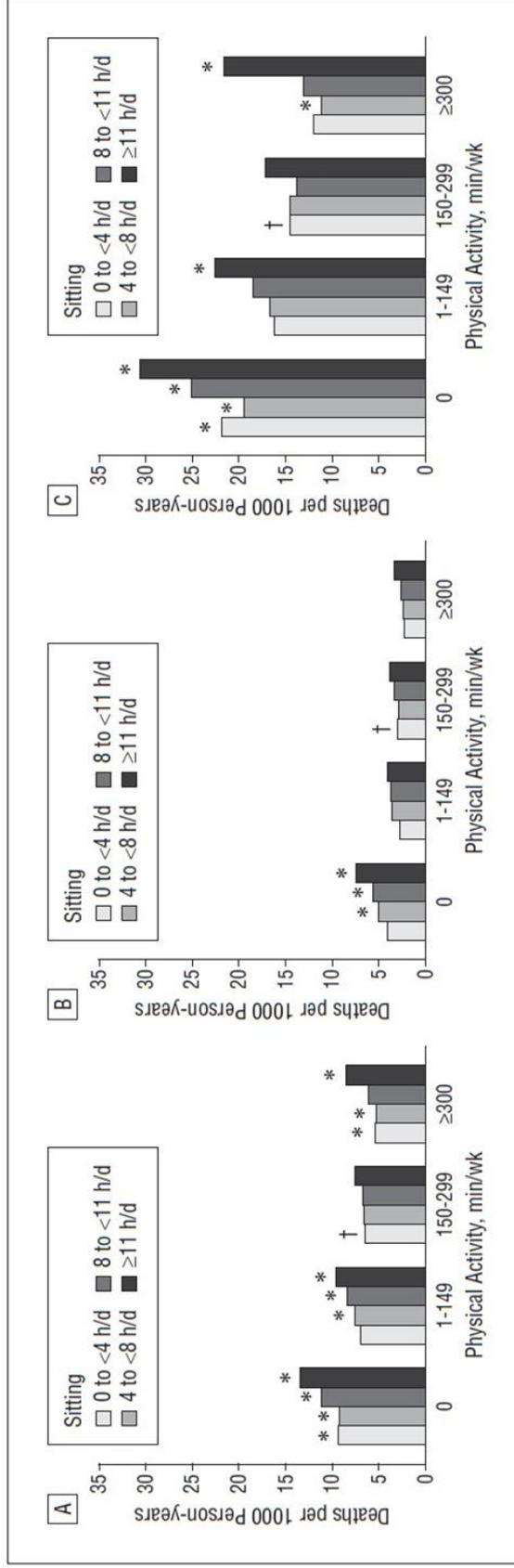
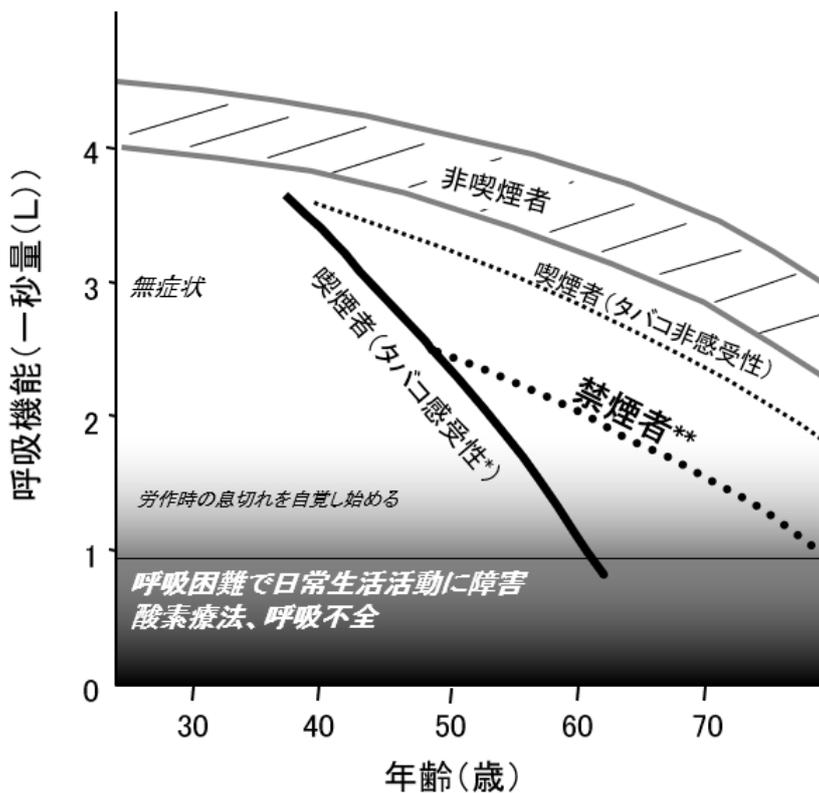


Figure. The combined relationships of sitting and physical activity with all-cause mortality. **A**, All participants ($n=222,497$). **B**, Healthy participants who at baseline had no cardiovascular disease, diabetes mellitus, or cancer, with the exception of nonmelanoma skin cancer ($n=145,713$). **C**, Participants with cardiovascular disease or diabetes at baseline ($n=52,229$). Deaths per 1000 person-years were adjusted for sex, age, educational level, marital status, urban or rural residence, body mass index, smoking status, self-rated health, and receiving help with daily tasks for a long-term illness or disability. * $P < .05$ compared with the reference group. †Reference group.

C12. COPD (慢性閉塞性呼吸器疾患)は主に喫煙を原因とする不可逆的な慢性呼吸器疾患である。図は平均的な男性成人が喫煙した場合としない場合の呼吸機能(一秒量)の自然歴を表している。個人のタバコ感受性を事前予測する医学的手法は確立されていない。この図を参考に、予見される健康被害および労働者に対する望ましい健康管理アプローチについてまとめて300字以内で述べよ。



*タバコ感受性は喫煙者の15-20%にみられる。

**タバコ感受性がある喫煙者が禁煙した場合、一秒量の経年低下は鈍化する。

原図 Am J Respir Crit Care Med 1995; 152: S77-S120. Figure2 の図を改変。

C2. C21 か C22 のいずれか 1 問を選び、解答を解答欄に記入しなさい。

- C21. あなたは、従業員数 2,000 人の大型金属加工機を製造している事業場の専属産業医である。健康診断の事後措置面談の対象となった従業員から「実は 1 か月前に自宅でけいれんして倒れ、てんかんと診断され治療している」と打ち明けられた。その従業員は倉庫係でフォークリフトの運転業務を行っていた。しかし、てんかんのことを職場には言わないで欲しいと言っている。産業医としてとるべき対処について、「守秘義務」と「安全配慮義務」という用語を用いて、300 字以内で説明しなさい。
- C22. あなたは労働者数 200 名の製造業の嘱託産業医である。昨年の夏に恒温室で熱中症の休業災害が発生したため、この夏の熱中症対策についてどのようにすべきか助言を求められた。恒温室は床面 3.9×8.4m、天井高さ 2.2m で、室温 40℃、湿度 80%の作業環境となっている。耐久性試験は 10 台ほどの製品を並べて実施し、作業は長時間 1 人で行われている。産業医として助言する内容を 300 字以内で述べなさい。

口頭試験問題(課題発表)

課題発表(1)

あなたは従業員約90名の住宅リフォーム業の嘱託産業医です。これまで休復職を繰り返していた社員Aさん(30代後半の女性、内勤の営業事務職)の復職面談を行ったところ、「自分の心の性別は男性であり、長年悩んできました。今回の休職中に性同一性障害の診断を受け、ホルモン治療を開始しています。」と述べました。あわせて「男性用の施設や制服を使用したいので、先生から会社に意見を述べてもらえないでしょうか。」と訴えました。

この会社の社長は普段から女性社員に対して「もう少し色気のある服を着て営業に出てもらえば、わが社の業績はもっと伸びるかな」などのセクハラ的な発言が目立つ人物です。またこの会社はオフィスビルの8階にグループ内の別会社と同居し、トイレとロッカールームを共用しています。バリアフリートイレは設置されています。内勤者には20kg前後の重量物の取り扱いがあり、慣例的に男性が担当することになっています。

本人から情報共有の同意が得られた総務部長、総務課長、総務課員に対して、今後の方向性や注意点について、10分間で説明してください。

課題発表(2)

あなたは、従業員数100名の製造業の嘱託産業医として選任され、初めて工場を訪問しました。この工場では、月曜日から木曜日まで製造ラインを稼働し、金曜日は出荷作業のみを行う業務シフトを組んでいます。土曜日・日曜日は休みです。あなたの出務日は、比較的工場が落ち着いているという理由から、金曜日に設定されています。

製造ラインには塗装工程があり、その工程に従事する約20名の従業員が、この工程で作業に従事し、第2種有機溶剤(トルエンなど)を取り扱っているとのこと。工場長からは「塗装工程の直近の作業環境測定結果は、第2管理区分の物質があり、まだ対策は必要だ。しかし、特殊健康診断の尿中代謝物検査では全員「異常なし」と判定されていて、社員の健康を守ることができていることが自慢だ。」と説明を受けました。

工場を案内されている途中に、塗装工程作業に従事する作業者に声をかけて質問をしてみると、「健康診断結果で異常はない」とは言うものの、自身が作業している工程に使用される有機溶剤の名前や、作業環境測定の結果は「知らない」との返事がありました。

事務所に戻り、特殊健康診断結果の個人票を見ると、全員管理Aと判定されていますが、自覚症状には「頭痛」「吐き気」と記載のある従業員が数名いるようです。この数年は、特殊健康診断を定期健康診断と兼ね月曜日の午前中に実施しているとのことでした。

この工場の塗装工程における有機溶剤に関する安全衛生管理について、次回訪問時の安全衛生委員会にてプレゼンテーションをしてください。

課題発表(3)

あなたは従業員数約 800 名の百貨店の嘱託産業医です。

産業医の出勤頻度は半日×2 回／月で、事業所には保健師 1 名が勤務しています。

3 ヶ月ほど前に乳がん罹患していることがわかり、治療を開始した 40 歳代の女性従業員から、職場復帰のタイミングと方法についての相談がありました。この従業員は、婦人服売り場のチームリーダーです。

「長期間休職すると職場に迷惑をかけるから、早く職場復帰したい。」と希望していますが、まだ放射線治療の最中であり、今後もしばらく治療が続く見込みです。この会社ではこれまで治療終了後の職場復帰事例はあるものの、治療中に職場復帰した事例はなく、このような場合に適応できるルール等はありません。

婦人服売り場には 150 名ほどの従業員が働いており、売り場のセクションごとに 5 チームで編成されています。各チームは 20~45 名の構成で、育児等による時短勤務制度利用者やパート従業員、派遣従業員等も含まれています。当該従業員は、チームリーダーとなって 3 年目、28 名の従業員を率えています。

治療中に職場復帰が可能と判断される場合において、就業上の措置及び治療に対する配慮の内容等も踏まえた職場復帰プラン、および、今後会社として対応すべき両立支援に関する仕組みの方向性について、人事部へ提案してください。

課題発表(4)

製造業 A 社では昨年、従業員数が初めて 1000 人を超えました。それに伴い、あなたはこの会社の初めての専属産業医として、常勤保健師 1 名とともに昨年採用されました。

事業所からの強い要望で、保健師とともにメンタルヘルスケアの取り組みに注力することとなりました。ラインケア教育やセルフケア教育、相談窓口の周知などを開始し、健康診断の問診時にも構造化面接を用いて社員のうつ状態のアセスメントを実施しました。

しばらく経ったある日、保健師が沈んだ表情で、「人事労務担当者がメンタルヘルス不調の要管理者数や休業日数を調査した所、いずれも前年に比べて増加していたそうです。人事に『せっかく専門家を採用したのに、正直言って困惑している。今の施策は適切なのか?』と言われてしまいました…」と産業医に報告がありました。

人事担当者に、産業医の考えを 10 分程で説明して下さい。

課題発表(5)

あなたは、職員数 150 人の地方合同庁舎の嘱託産業医をしています。

担当の保健師より、「2019 年 7 月より敷地内全面禁煙を実施した後、喫煙者である職員の一部が、勤務時間中トイレに立った際や昼休みに職場を抜け出して、庁舎近くの公園や職員駐車場に停めた自家用車の中で喫煙している。部署の席に戻った後、着衣や口臭がタバコ臭いので困っている、

と非喫煙者である職員から苦情が出ているのだが、どうしたらよいだろうか。」と相談がありました。庁舎内の喫煙者は30名ほどですが、喫煙者の権利を主張し、禁煙推奨や注意を促しても聞き入れようとしません。最近、近所の町内会からも苦情が出ています。局長も喫煙者であるためか、総務課長は相談しても積極的に対策をしようとしません。

「安全衛生委員会は局長も参加するので、産業医である先生から、職場の受動喫煙防止を推進する様な講話や提案をして欲しい」と保健師から要望がありました。

あなたは産業医として安全衛生委員会でどの様な提案をしますか。

10分程度で説明してください。

口頭試験問題(グループ討議)

グループ討議(1)

あなたは、従業員約300名の金属加工業の嘱託産業医です。

この工場には金属製品の洗浄工程にフッ化水素酸取扱い作業があります。洗浄工程は排気装置が完備された自動工程であり、作業空間におけるフッ化水素酸の作業環境測定結果は第1管理区分です。ただし、この自動工程のトラブルが発生した際には、作業者は作業標準書に則り、保護衣・保護メガネ・保護手袋を装着し、フッ化水素酸が付着した装置内に立ち入ることになります。

先日、工程トラブル対応に従事した社員が、拇指に強い痛みを覚え、昼休み時間に隣の医療機関を受診しました。フッ化水素酸取扱い後の保護手袋を取り外す際、誤ってフッ化水素酸に触れた可能性があるため経過観察入院になりました。工場長が本人のお見舞いに行ったところ、「最近、眠れず眠剤を使い始めた。午前中にぼーっとすることがあり、作業中に集中力を欠いていた。」と打ち明けられたとのことでした。そこで、工場長は、配置換えの要否について相談するため産業医を訪れました。工場長は、この社員は経験豊かなので当該作業に従事させ続けたい、また、これを機に、フッ化水素酸取扱いについての安全衛生管理を見直したいとのことでした。

当該従業員への対応とフッ化水素酸取扱い作業に関する安全衛生管理体制の見直しについて検討ください。

添付参考資料:厚生労働省職場のあんぜんサイト 安全データシート(フッ化水素酸)

グループ討議(2)

あなたは、職員数280名の高齢者施設の嘱託産業医をしています。

この施設では、この2年間に3度のCOVID-19のクラスター感染を経験しました。退職した職員はいませんが、特別養護老人ホームの部門では、時間外労働が30時間程度発生している職員が多数おり、また腰痛を訴えて病気休暇を取得した職員も複数います。

先日行ったストレスチェックでは、高ストレス者割合が増加し、集団分析結果では健康リスク値の悪化が認められました(集団分析結果は添付資料のとおり)。

施設長から、「経営状態にあまり余裕のない現状でも、今後職員が元気に前向きに仕事を続けられ

るよう、どのような取り組みを展開したら良いか」と相談がありました。

今後の取り組みを検討するために、どのような追加情報が必要か、また具体的な取り組みについて検討してください。

添付資料:ストレスチェック集団分析結果

グループ討議（3）

あなたは従業員数1200人のIT企業の嘱託産業医です。

従業員の半数を占めるシステムエンジニアは残業が多く、産業医の出務日は、過重労働面談が主な業務となっています。コロナ禍以降、ほとんどの従業員がテレワークであり、オンライン面談が多い状況です。メンタルヘルス不調による休業者も発生しており、職場復帰時の面談では、「テレワークのまま夜遅くまで家で仕事をしていました。」との話を聞きました。さらに最近、社会全体の価値観の変化に伴い、従業員から「働き方の多様化と副業の解禁」を求める声が出ています。社長としても、「従業員が見識を広めるのは、当社にとって良いことではないか。IT人材が不足する中、わが社にできるだけ良い人材に来てもらうためにも、副業解禁に向けた検討を進めてほしい。」と人事部門に指示が出されたとのことで、人事部長から副業解禁について、産業医の意見を聞かれました。

産業医として課題を検討し、意見を述べて下さい。